

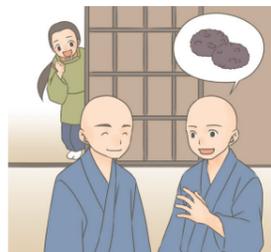
古文の単語・会話をとらえよう

要点 チェック

次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

今は昔、比叡の山に見ありけり。僧たち、今となっては昔のこと、比叡山延暦寺に児がいた。僧たちが宵のつれづれに、いざ、かもちひせんとい宵のたいくつしにさあ、ぼたもちを作ろうと言ひけるを、この児心よせに聞きけり。この児は(じめた)心待ちにして聞いた。

「手治拾遺物語」より



※古文の読み仮名は現代仮名遣いです。

1 次の文の [] の動作主を、解答欄の字数で古文中から書き抜きなさい。

(1) 一人の男、文挟に文をはさみて申す。

「竹取物語」より

【現代語訳】一人の男が、文挟(文書を挟む白木の棒)に手紙をはさんで申し上げる。

(2) 鳥のねごころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど飛びいそぐさへあはれなり。

「枕草子」より

【現代語訳】鳥がねごころへ行くとして、三、四羽、二、三羽などと飛び急ぐことさえ、しみじみとした趣がある。

[]

ガイド 2 (10点)

2 次の古文中から塩屋の主の会話を二十七字で探し、初めと終わりの三字を書き抜きなさい。

(海岸でさまよっていた文太という青年を、塩屋の主人が引き取った。)

主申しけるは、かくてつれづれにおはせんより、塩焼く薪なり主人が言うことには、こうしてひまきょうにしていらつしやるより、塩を焼く薪でも

とも取り給へと言ひければ、「いとやすきことなり」とて、薪をぞ取ってきた。取ってきた。

「正文草子」より

[]

ガイド 2 (10点)

解答・解説集 p.18

名前 年 組 番

合計得点

100

4 絶好のきかい を待つ。 5 けが人をかんど する。 6 相手と言葉をかわす。

A ふりかえろう

2 人物の会話をとらえる。 この古文中から会話を一か所探し、十字で書き抜きなさい。 (10点)

「ア」 会話文の後「ア」「エ」「イ」などの形になることが多いよ。

線部のすぐ前に書かれているよ。

1 動作主(誰の動作か)をおさえる。 ① 「聞きけり。」とは、誰の動作か。次から一つ選び、記号で答えなさい。 (10点)

- ア 僧たち イ 児 ウ 作者

[]

ガイド 2 (10点)

B たしかめよう

次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

武州に西王の阿闍梨と云ふ僧有りけり。「御

年は、いくらにならせ給ひ候ふぞ」と、人の問ひ

ければ、「六十に余り候ふ」と云ふに、七十に余

りて見えければ、不審に覚えて、「六十には、

くら程余り給へる」と問へば、「十四余りて候ふ」

と云ひける。遙かの余りなりけり。七十と云へる

よりも、六十と云へば、少し若き心地して、かく

云ひける。人の常の心なり。

※武州は武蔵の国(現在の埼玉県・東京都・神奈川県東部)のこと。 ※阿闍梨は密教の高位の僧の称号。または師範となる僧の敬称。

読むナビ 年齢を尋ねられた阿闍梨の答えは……。 六十に余り候ふ 六十には、いくら程余り給へる 十四余りて候ふ 少し若き心地 人の常の心なり。

「沙石集」より

2 「不審に覚えて」とあるが、不審に思った理由を表した次の文の空欄に当てはまる言葉を、現代語訳から書き抜きなさい。(10点)

※阿闍梨は年齢を六十過ぎだと言っているが、実際の見た目は

[] いるように見えたから。

ガイド 2 (10点)

3 「十四余りて候ふ」とあるが、阿闍梨は実際には何歳だったのか。漢数字で書きなさい。(5点)

[] 歳

4 阿闍梨が初めに年齢を「六十に余り候ふ」と言った理由をどう書いているか。理由を古文中から二十五字で探し、初めと終わりの五字を書き抜きなさい。(10点)

問題かみくさ

六十に()余る場合、普通()に四つ余ると言つのに、「六十に余り候ふ」と言つたんだね。



1 古文中の会話や動作主について、問いに答えなさい。(1) 「問ひければ」とは、誰に何を問うたのか。次の文の空欄に当てはまる言葉を古文中から書き抜きなさい。(10点)

[] に [] を問うた。

ガイド 2 (10点)

2) a 「問へば」、b 「云ひける」の動作主は誰か。次から一つずつ選び、記号で答えなさい。(5点)

[] a [] b

- ア 西王の阿闍梨 イ 阿闍梨以外の僧 ウ 人 エ 作者

4 「人の常の心なり。」とあるが、どんなことが「人の常の心」だといふのか。次から一つ選び、記号で答えなさい。(10点)

[]

- ア 実際の年齢よりも若く見られたと思うこと。 イ 長生きすればするほど人格が高まっていくこと。 ウ 人の心は見かけや地位からは判断できないこと。 エ 問い詰められると、つい真実を話してしまうこと。

※「子数字指定のあるものは、句読点や配字を省略して記入してください。」

入試に出た漢字 1 友達からゲームをか ける。 2 竹刀をかま える。 3 友人に本をか する。

